



2023第10回福岡県
木造・木質化
建築賞



ご挨拶

森林は、再生可能な資源である木材の生産や、土砂災害の防止、水源のかん養に加え、カーボンニュートラル実現に向けた二酸化炭素の吸収・固定など、さまざまな面から私たちの暮らしを支えています。

私たちがこの恵みを持続的に享受していくためには、適切な森林の整備と併せて利用期を迎えた森林資源を有効活用する「伐って、使って、植えて、育てる」サイクルを維持する必要があります。

この一環として、県では、公共建築物だけでなく、民間も含めた建築物全般の木造・木質化の推進に向け、県産木材の供給体制づくりや中大規模の木造建築物を設計できる建築士の育成などに取り組んでいます。

「福岡県木造・木質化建築賞」は、こうした取り組みを進める上でモデルとなる優れた建築物を表彰しており、今年度で第10回を迎えました。

今回、住宅やオフィスビル、公園施設など幅広い分野からご応募をいただき、選考委員会の厳正な審査を経て、大賞2点、優秀賞2点、特別賞2点、奨励賞6点、



福岡県知事
服部 誠太郎

計12点を「福岡県木造・木質化建築賞」に決定しました。受賞された建築物は、いずれも木の温もりや木目の美しさといった木材の特長を生かした素晴らしいものです。また、木材と鉄骨を上手く組み合わせた中高層の建築物など、木材利用の新たな可能性を感じられるものもあります。ぜひこれらの建築物をご覧になり、木材の良さや木造建築の可能性を感じていただきたいと思います。

県では、引き続き、県産木材の需要拡大に向けた取り組みを進めてまいりますので、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、選考委員の皆さまのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、受賞者ならびにご応募いただいた皆さまの今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

福岡県木造・木質化建築賞概要

1 表彰の目的

県では、県産木材の需要拡大の推進をより一層図るため、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し普及啓発することを目的に、本賞を実施しています。

2 賞の対象

公共や民間施設の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

3 賞の部門

- 木造の部（大賞・優秀賞）
- 木質化の部（大賞・優秀賞）
- 特別賞2点 ●奨励賞6点

4 主な選考基準

- *国産材を創意工夫により活用し、林業振興に寄与しているもの
- *木材の特徴や良さを活かし、建築物の木造・木質化に波及効果があるもの

5 選考委員

役職	氏名	職名
委員長	大内 毅	福岡教育大学 教育学部教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部 建築デザイン学科教授
委員	松尾 智昭	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	内門 博	西日本新聞社クロスメディア報道部
委員	真井 浩一	福岡県農林水産部林業振興課長

木造の部 大賞

鳥飼八幡宮 対拝殿

所在地:福岡市中央区



写真撮影:井上登

建築主 | 宗教法人鳥飼八幡宮 代表役員 山内圭司
設計者 | 一級建築士事務所 二宮設計 二宮隆史・二宮清佳
施工者 | アスミオ株式会社 代表取締役 吉岡澄男
有限会社杉岡製材所 代表取締役 杉岡世邦
建築物の用途 | 神社(拝殿)
構造・規模(階数) | 木造一部鉄骨造・地上1階
延床面積 | 44.59㎡

設計趣旨 鳥飼八幡宮は弥生時代に起源を持つ。江戸時代に現在地へ移された本殿と拝殿は、205年振りの遷宮を行うことになった。本計画は、新社殿の造営中に使用する仮宮の新設と老朽化した摂社群も新設し、遷宮後も拝殿として常設使用できることが求められた。新本殿は神明造り・新拝殿は巨石と茅壁による磐座のような祈りの場となる計画である。対して仮宮には「懐かしい」空気を纏わせ、光の溢れる簡素な木架構による空間とした。構造は全て福岡県産材のヒノキを用い、木挽から丁寧に材の無駄をなくすように材選定と材配置を行った。7寸柱を850mm潜らせ地下空間内で補強を施し、透過度の高い架構を実現している。柱の独立性を際立たせる桁材は様々な断面検討を行い105x390とした。基部は全て地中に潜らせているため参拝者はバリアフリーにアクセスできる。地域の素材と人材だけで造った対拝殿が、人々の新たな依代となることを願っている。

講評

この対拝殿は柱と屋根だけで構成され壁の存在を無くした透明感に満ちた建物である。床も周囲のグランドラインとほぼ変わらない高さで、ガラスを通して周囲の摂社や本殿や拝殿、樹木と一体となった空間となっている。耐震の構造部分を地下で処理しているため屋根だけが浮いているように見える。特に隣に建つ巨石と茅壁で造られた塊の存在感を主張している拝殿との対比が秀逸である。

木は全て県産材を使用しヒノキの柱や梁は製材所の協力により設計者の意図を汲んだ木取りや乾燥が行われ、宮大工の丁寧な手刻みによる木加工により隙のない静謐な空間が実現している。伝統の様式にとらわれない設計者のオリジナルなデザインであるが、祈りを捧げる空間としての本質を捉えている拝殿となっている。この提案を受け入れた施主、木の質を熟知した製材所、高い技術を持つ施工者が設計者と一体となって取り組み完成した建築であり、木造建築賞の大賞に相応しい作品である。

木質化の部 大賞

やまや総本店 膳 / 白金小径

所在地:福岡市中央区



建築主 | 株式会社 やまやコミュニケーションズ 代表取締役社長 山本正秀
設計者 | 株式会社 yHa architects 平瀬祐子 平瀬有人 池尻真人
施工者 | 株式会社 イクスワークス 内山琢也
建築物の用途 | 飲食店
構造・規模(階数) | 木造一部鉄骨造・地上1階
延床面積 | 297.52㎡

設計趣旨

福岡市中央区の飲食店。建築主が掲げるビジョンである「Made in KYUSHU -九州の食文化の創造と発信」のフラッグシップとなる本建築は、九州由来の素材や技術を積極的に使用している。周囲を中高層の建物に囲まれた都市部の環境から、非日常的で周囲から遊離した空間を作り出すため、黒い矩形のボックスで閉じられた空間の中にやわらかさを感じられる楕円型の中庭を配置した。内部は趣向の異なる2店舗(膳 / 白金小径)が並び、一歩中に踏み入ると正面の桜を中心とした中庭が、都市の雑踏とは異なった静寂の別世界を演出する。

また、土地や地域のコンテクストを尊重しながら選択的転用を行い、新しい価値を生み出すことが重要であると考え、以前土地に存在していた旧邸宅の門扉や建具、庭木などを建築部材として転用することで、空間や物質の記憶を継承している。

講評

ランチ・カフェ回廊と中庭緑の調和が心地よい。外周壁に黒い焼き杉板を張った矩形ボックスの中央部にスーパー楕円を描く中庭が開かれている。シンボルツリーのソメイヨシノや既存のウメ古木などの在来樹が植栽され、都市の中での小さな自然を感じさせる。外周壁から中庭にむけて下る屋根の軒先もまたスーパー楕円の軌跡で天空を切り開く魅力的な意匠となっている。

一方レストランでは、旧木造邸宅から「生かし取り」した木製の門扉や座敷欄間、書院障子などが再活用されている。伝統的に職人たちが製作してきた造形技術の痕跡を遺す価値あるものとして扱われている。赤いシラス壁や白い漆喰壁などもまた伝統技術の延長として表現されている。構造軸組もスギの柱と米松の梁を室内に露出させ伝統的な加工技術で架構されている。内装の法的規制が厳しい中で、こうした木造建築の伝統文化を継承して現代の空間に生かすデザインを実践した関係者に敬意を表したい。



写真撮影:やまやコミュニケーションズ

木造の部 優秀賞

陰翳を愉しむコートハウス

所在地:太宰府市



建築主 | 個人
設計者 | 株式会社シンケン 代表取締役 迫英徳
施工者 | 株式会社シンケン 代表取締役 迫英徳
建築物の用途 | 住宅
構造・規模(階数) | 木造・地上2階
延床面積 | 125.03㎡

設計趣旨 太宰府天満宮近くの閑静な住宅地に佇む木造住宅。力強い既存樹と柔らかな木陰を活かす配置としている。住宅用の一般的な正方形の土地とは異なり、間口の2倍奥行きがある長方形の土地であったため、奥行きを活かす空間構成とした。建物の中には、樹木に癒される「アプローチ庭」、家族と愉しめる「中庭」、宝満山を望める「奥庭」、この3つの庭と内部空間を大きな木製窓で繋げることで、内と外を同時に感じられる居心地の良い空間としている。また、3つの庭と内部空間をゾーニングし、空間の明暗を交互に展開する事で、奥へ奥へと視線が伸びるように計画した。

これらのコンセプトを形にする際、日本の山で出番を待つ杉の木をいかすこと、そして、太陽や風、樹々や石、自然界にあるものを上手に活かすことを大切に。この住宅が、歴史ある太宰府の地に時を経て美しく馴染み、家族に愛され住み継がれていくことを願っている。

木質化の部 優秀賞

ボタニカルライフスクエア

所在地:福岡市中央区



建築主 | 公益財団法人 福岡市緑のまちづくり協会 理事長 大谷雄一郎
設計者 | アトリエサンカクスケール株式会社 代表取締役 村上明生
施工者 | パナソニック建設エンジニアリング株式会社 代表取締役社長 南畑亮
建築物の用途 | 文化施設(植物園)
構造・規模(階数) | 鉄骨造一部木造・地上1階
延床面積 | 293.71㎡

設計趣旨 福岡市植物園内にある都市緑化(花と緑「一人一花運動」)の拠点施設をつくる計画。植物という新陳代謝の時間軸を持つ「生きるエネルギー」は、都市に住む人々にとって精神的な安定や活力をもたらすものと考え、都市環境の中で自然の力がもたらす機能を探求し、ボタニカルライフが社会に溶け込む様子を建物全体の構成で表現した。

可能な限り透明度の高い建築であり周辺に溶け込むデザインを重要視し「壁」を持たない原始的な「屋根の建築」を目指した。屋根は全て木材で仕上げ、内装の木質化も施し、大空間を木という素材で如何につくるか構造的な検討を行いながら「レシプロカル構造」を採用し、市民が共働して植物の良さや木の豊かさに触れてもらいたいという想いを「3本の梁がそれぞれ共助」する構造方法で表現している。またこの屋根の建築に「屋上緑化」の機能を付加する事で都市緑化の啓発をもたらしている。

樹木をたたえた木造の薄い屋根の下で、様々なアクティビティが生まれる事を想起させるこの空間は、体験・実践・情報交流・技術向上・緑の輪を広げる「次世代の植物園」施設を目指す有用な建築計画であると考えている。

写真撮影: ikumasatoshi (TechniStaff)

特別賞



写真撮影:学校法人瑠璃学園 写真撮影:健康住宅株式会社

学校法人瑠璃学園 認定こども園 瑠璃幼稚園 所在地:糸島市

建築主 | 学校法人瑠璃学園 理事長 波多江教雄
設計者 | LOOPS Architect. 株式会社 代表取締役 吉本高広
施工者 | 健康住宅株式会社 代表取締役 畑中直
建築物の用途 | 幼稚園
構造・規模(階数) | 木造・地上1階
延床面積 | 972.47㎡
設計趣旨

糸島市に新設された幼稚園。建設地が埋蔵文化財包蔵地区内であり、地盤面に大きな負担を与えない軽い構造が求められたことから木造平屋の園舎とした。特徴的な八角形の屋根と上方・下方を示す真柱は、仏教世界においてあらゆる時間と空間を意味する「十方」を表しており、そのような空間で園児たちを育てたいという建築主の思いから実現したもの。園舎は、注文住宅で培ったノウハウを生かした高気密高断熱の設計を行い、室内の冷暖房効果を高めることで、夏は涼しく冬は暖かく過ごすことができる。建築主の思いを実現し、園児たちの発見に満ちた日常を優しく見守る建築となった。



大和興業ビル 所在地:飯塚市

建築主 | 大和興業株式会社
設計者 | 有限会社 阪根宏彦計画設計事務所 取締役 阪根宏彦
施工者 | 大和興業株式会社 代表取締役 梅尾裕一
建築物の用途 | 事務所
構造・規模(階数) | CLT+鉄骨造・地上3階
延床面積 | 494.63㎡
設計趣旨

飯塚市中心部にある賃貸事務所ビル。本計画は、CLTと鉄骨造のハイブリッド構造を採用した。外壁をガラスで覆うダブルスキン構造とすることで、建物の長寿命化やパッシブ型の省エネルギー化を図るほか、CLTをエクステリアとして現しとする設計とした。

施工については、12mのCLTマザーボードと鉄骨が一体となった構造材を工場で作成し、短期間で建て方を行うことで、施工の効率化や総合的なコスト削減を実現した。また、一般的に流通している鉄骨材を使った構造とすることで、地場の建設会社が施工可能な計画とした。

奨励賞



おんがみらいテラス 所在地:遠賀郡遠賀町

建築主 | 遠賀町長
設計者 | 株式会社 昭和設計 九州事務所 主管 西川正晃 / 主任 大野晴臣
施工者 | 株式会社松尾組 代表取締役 松尾茂行
建築物の用途 | 集会所
構造・規模(階数) | 鉄骨造・地上4階
延床面積 | 1694.89㎡
設計趣旨

JR遠賀川駅に隣接した交流拠点施設。駅周辺の整備事業や、駅南地区の定住拠点地区形成のための開発が進められており、本施設には駅前立地を生かした、にぎわい創出拠点としての役割が求められた。施設には、図書・飲食スペース、イベント利用のできる多目的室、子育て支援を行う遊戯室を備えており、用途に合わせたテラスを設けることで、屋内外一体的な利用が可能な計画とした。また、木材を積極的に採用し温かみのある内外装とすることで、利用者が親しみを感じ、町のにぎわいを生む施設となることを目指した。

エフコープ本部事務棟 所在地:糟屋郡篠栗町

建築主 | エフコープ生活協同組合 代表理事 理事長 堤新吾
設計者 | 株式会社 洋建築計画事務所 三村哲二
施工者 | 松尾建設株式会社 福岡支店 支店長 味志聡
建築物の用途 | 事務所
構造・規模(階数) | CLT+鉄骨造・地上4階
延床面積 | 6,990.58㎡
設計趣旨

本施設は、エフコープが掲げる「2030年ビジョン」と「2030環境基本計画」に基づき、持続可能な循環型社会の実現を目指す活動を象徴する建物としてNearly ZEB仕様で建築した。外観は、地域との調和を考え、交通機関や景観に配慮した建築となっている。内装はCLTを現し仕上げとすることで、木の香りが漂う心地よいオフィス空間を実現している。構造は木造+鉄骨造で、森林資源の有効活用や優れた断熱性、遮音性の効果が期待できるCLTを使用するとともに、採光や自然換気、LOW-E複層ガラス、日射調整効果を配慮した庇など、パッシブ技術により建物の省エネ性能を高めている。

奨励賞



写真撮影:石井紀久

鮨 幸仁 所在地:福岡市中央区

建築主 | 個人

設計者 | STUDIOMOUN 一級建築士事務所

施工者 | 株式会社 安恒組

建築物の用途 | 飲食店

構造・規模(階数) | 木造・地上1階

延床面積 | 24.06㎡

設計趣旨

館店を設計するにあたり、店主の温厚な人柄や職人としての姿勢を体現するため、マテリアルに重きを置いた空間を計画した。様々な表情を見せる木材に着目し、耐久性や抗菌力が高いイチョウや経年変化を楽しめる赤みが特徴のパドックなど複数の樹種を使い分けている。店内は、客席を最大数確保するために、つけ場と一体となった扇形のカウンターを店の中央に計画し、その形状に沿うように曲線を描く壁で客席とエントランスとを仕切ることで、落ち着いて鮨を味わえる空間をつくり上げた。インテリアデザインに加え、鮓板や看板などを表現・伝達するためのディレクションまで一貫して行った。店主が持つ世界観や店での空間体験を拡張することで、丁寧につくり上げた空間やツールは、時間と共に表情を変え、無二の空気感を醸成していく。



写真撮影:大神設計株式会社 伊東浩

三友機器・三友ボディー古賀工場 所在地:古賀市

建築主 | 三友機器株式会社 代表取締役社長 平木一男

設計者 | 大成建設株式会社九州支店設計部 松島拓司 片瀬順一 石村佳子

施工者 | 大成建設株式会社九州支店 執行役員支店長 西河誠

建築物の用途 | 事務所

構造・規模(階数) | 木造・地上2階

延床面積 | 962.42㎡ (木造2棟合算値)

設計趣旨

ボトルカーやトラックの車体の架装を行う会社の新工場。「親しみやすく、会社への愛着を深める風景を創る」ことを意図した。今回9棟からなる工場を新築し、内2棟の事務所棟、食堂棟は社員のコミュニケーションの場となるため、木造とすることで安らぎの場を提供した。事務所棟は吹き抜けのホールを中心に全体が繋がる計画とし、大会議室は、15m×12mの大空間を立体トラス構造で実現した。並置される食堂棟もトラス構造を採用し、一対の計画とした。その他の工場棟には、クラフト感あるサインを施すことで、敷地全体をまとまりのあるデザインとしている。数年後アプローチの桜並木が成長し、親しみやすく会社への愛着を深める風景が完成する。



写真撮影:中村絵

HIBIKINADA CAMP BASE 管理棟 所在地:北九州市若松区

建築主 | 響灘アーバンアウトドアパートナーズ

代表企業:株式会社 福岡放送 代表取締役社長 廣瀬健一

構成員:株式会社 オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 野崎秀則

設計者 | 末光弘和+末光陽子/SUEP.+ 永瀬智基

施工者 | 株式会社 志道工務店 代表取締役 藤井武樹

建築物の用途 | 管理棟

構造・規模(階数) | 木造一部鉄骨造・地上2階

延床面積 | 127.75㎡

設計趣旨

建築は木造と鉄骨によるハイブリッドの構造体となっており、大黒柱を中心とした特徴的な螺旋状の梁と列柱が空間を力強く定義づけている。螺旋の構造体とした理由は2つある。建物を訪れた人の動線をそのまま空間化したこと、もう一つは外部の階段と室内の階段が一体となって螺旋状に上昇し、屋上展望デッキテラスに繋がっていくという建築のコンセプトを構造化したところにある。

また、外観を特徴づけるヒノキ丸太の列柱は、この敷地内にあるヒノキ林の健全化のために間伐された木材を、そのままこの場所で利用したもの。均質に製材されたものと違い、その地に生えていたそれぞれ異なる径や形の柱が並ぶことによって、独特の外観となっている。



写真撮影:UNGLE 瀬戸正直

FANFAREatelier 所在地:福岡市博多区

建築主 | 株式会社 FANFARE 代表取締役 梶原清悟

設計者 | 株式会社 FANFARE 代表取締役 梶原清悟

施工者 | 株式会社イクスワークス 代表取締役 舟木和彦

建築物の用途 | 事務所

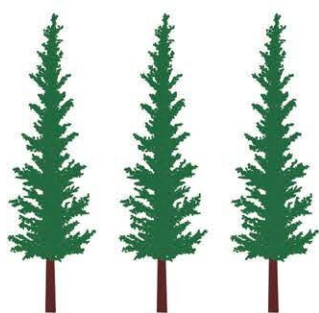
構造・規模(階数) | 木造・地上3階

延床面積 | 234.18㎡

設計趣旨

木造3階建ての自社アトリエ。周辺には旧来からの町屋が点在する一方で、ひとつ向こうの通りにはオフィスビルが立ち並び都市空間が広がる。この地域に馴染む建築となるよう、道路面との連続性を持ったデザインとするほか、夜間には内部の照明が街灯として機能する設計とした。

約30名が働くアトリエとして快適な空間を形成するため2つの吹抜を設け、光や風を取り入れることで、建物内の環境をコントロールしている。気候変動問題が深刻化する中、省エネルギー、創エネルギーは非常に重要な課題である。木造で建築することで建設時のCO2排出量を抑えることができ、再生可能な資源である木材を活かすことができる。RC造ビルが建ち並ぶ中であっても、3階建ての木造ビルを建てることは自然な選択だった。



2023 第10回福岡県木造・木質化建築賞

令和6年3月

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係

TEL092-643-3549 FAX092-643-3541

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/gyosei-shiryo/mokuzou10panfu.html>



福岡県行政資料	
分類記号	所属コード
PF	4701002
登録年度	登録番号
05	0007